

旧福島邸の門柱と石積塀

平成23年に解体された旧福島邸は、木造本瓦葺平屋建、江戸時代後期の1717(享和2)年の建築とされる当時の建築様式を今に伝える貴重な建造物でした。

旧宅は武家の住宅の流れをくむ建築様式であり、客人をもてなすための空間と、家族が過ごすいわゆる居住空間とがはっきり区別されていました。明治36年作成の図面からも、接客のための部屋すべてに長押が施されていたことや、奥座敷には違い棚、床の間、書院窓がある伝統的な武家住宅であったことが確認できます。

1877(明治10)年の西南戦争の際には、この邸宅が西郷軍の佐土原隊を率いた島津啓次郎の宿舎となりました。西郷軍が延岡へ北上する際には、政府軍の追撃を防ぐためにこの一帯に火が放たれましたが、福島邸は奇跡的に焼失を免れました。

平成19年度から同23年度の解体直前までの5か年にわたり、宮崎県立宮崎工業高校建築科が主屋の実測調査及び史料調査を実施し、貴重な成果を上げています。平成23年6月には「さよなら見学会」と称してその内部も公開されました。解体を惜しむ多くの声を受け、門柱や石積塀とともに建物の一部は移築されました。

長押(なげし) ----- 和風建築で鴨居(かもし)の上に取り付ける横木のこと。本来は、柱を固定するための構造材でしたが、今では和室を装飾する造作として付けられています。



門柱等移設前の旧福島邸位置図



旧福島邸の屋根瓦 (左:本瓦葺の屋根 右:「福」の文字がある鬼瓦)

福島邦成略年譜		
1819	文政2	当時延岡藩であった宮崎郡太田村(現:宮崎市中村町西1丁目)で誕生
1836	天保7	延岡藩の官費で江戸で学ぶ 古賀伺庵に入門し、さらに昌平坂学問所でも学ぶ
1844	弘化元	延岡藩の官費で京都で学ぶ
1850	嘉永3	日向国延岡藩領内で初の牛痘接種 宮崎郡太田村で西洋医術内外科を開業
1870	明治3	当時、清と呼ばれていた中国へ渡航
1871	明治4	宮崎で最初の医学所と宮崎医院(現善栖寺境内)を設立
1873	明治6	東京で学ぶ
1877	明治10	宮崎出張警視病院長を命ぜられる
1879	明治12	蒸気船日向丸を購入し、日向航路を開設
1880	明治13	私費を投じて初代となる橘橋を架ける
1887	明治17	私立橘病院開設
1898	明治31	永眠



江戸時代の様式を残す福島邸。早ければ7月にも取り壊される
—5日午前、宮崎市中村西1丁目

築300年民家解体へ

「福島邸」住民らは「残念」

宮崎市

築300年の歴史を持つ、宮崎市中村西1丁目の福島邸。が今夏、取り壊されることになった。7月下旬にも工事が始まる予定で、住民らから貴重な民家の解体を惜しむ声がかかる。26日には「さよなら見学会」が開かれる。

福島邸は、江戸時代に代々医者として栄えた福島家の私邸で、1717(享保2)年、24代目勝寛氏の時代に建てられたとされる。本瓦葺きの木造平屋建てで約214平方メートル。透かし彫りと呼ばれる装飾を施した欄間や二つの玄関口など、当時の民家としてはぜいたくな造り。私財を投じて橘橋を架けた偉人福島邦成の生家としても知られる。県や宮崎市の文化財には指定されていない。

現在は33代目順一さん(81)が住んでいるが、約2475平方メートルの敷地の維持と莫大(はくたい)な相続税の可能性などを考慮して取り壊しを決めたという。跡地にはマンションが建てられる。

近頃の宮崎工業高では、建築科の3年生が2007年度から福島邸を課題研究のテーマとし、復元模型の制作などに取り組んできた。指導していた稲用光治教諭は「大淀地区の歴史を語る上で重要不可欠な遺産。取り壊しが決まったのは非常に残念だ」とショックを隠さない。

県建築士会まちづくり委員会の福添勝郎委員長も「木造で築何百年も経過した民家が宮崎市内に残っていることが奇跡的。壊してしまうと二度と戻らない」と解体を惜しみ、「別の場所に移築するなどの方法は考えられないだろうか」と訴える。

見学会は26日午前10時〜午後4時、同所で行われ、所蔵品の即売などがある。参加無料。

当時の新聞記事(宮崎日日新聞 平成23年6月6日朝刊)

= 参考文献 etc. =

- 『橘橋を架けた医師 福島邦成の生涯』 田代学 江南書房 1997
- 『嶺南日誌 第1巻 慶応元年-明治元年』 宮崎県立図書館 1991

* 本資料は福島良一氏、宮崎県立宮崎工業高校建築科の協力を得て作成しています。 *

【資料作成：宮崎市教育委員会文化財課 令和7年3月】